

## 平成 28 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成 29 年 3 月 24 日（金） 14:00～16:00

○場所：大野市役所 2 階大会議室

○議事：(1) 平成 27 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要  
(2) 平成 28 年度の各機関の取り組み状況  
(3) ダムによる地域貢献について  
(4) 各機関へのアンケート結果

### 1. 平成 27 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について

平成 27 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について事務局より説明を行った。特に質問や意見はなかった。

### 2. 平成 28 年度の各機関の取り組み状況について

平成 28 年度の各機関の取り組み状況について事務局が説明を行い、各機関が補足した。主な質疑応答及び意見は以下のとおりである。

#### (1) 11. 水への恩返し Carrying Water Project についての報告

- ・（委員長）Carrying Water Project に関して水源地域との関係でどのような取り組みを行っているか。  
→（事務局）水源地域に限ると（一財）水への恩返し財団が取り組む水田湛水事業・森づくり事業がある。Carrying Water Project は大野市の取り組みを発信する事業なので、水源地域の活動とあわせて取り組んでいる状況である。
- ・（委員）榎モンベルが企画募集した荒島岳登山と自転車散策ツアーの中で、水田湛水の説明も行ったが、参加者への伝え方が難しい。例えば、手押しポンプで汲み上げた地下水が飲めるとわかりやすい。水飲み場が散策先の各所があれば、水が生活につながっていることが伝わりやすいのではないか。  
→（委員長）水を五感で感じられると良いと考える。参考にしていきたい。

#### (2) 7. ダムカードの配布についての報告

- ・（委員長）ダムカードは観光客の増加と結びついているのか。  
→（事務局）そう思う。ダムカードの郵送を依頼する郵便が来ることもある。現地に来ないと入手できない原則を守って、断わるようにしている。  
→（委員）ダムに来て過ごす時間は長くないが、周辺地域への観光や買い物などの波及効果があると思われる。
- ・（委員）ダムカード配布数が、九頭竜ダムが 1 位、真名川ダムが 2 位と多い理由は何か。  
→（委員）永平寺などの観光地が近いこと、福井と郡上（岐阜）の観光ルートをつなぐ立地にあるためと思われる。

(3) 19. 「九頭龍川クリーンアップ大作戦」を開催！についての報告

- ・（委員）河川協力団体が連携して清掃活動に取組みたいが、団体の都合などで日程調整が難しいため、開催日でなく開催期間で連携することになっている。
- ・（委員）上流域は河川敷が少なく、葦や柳があるので子どもが入りにくい。子どもが安全に入れる場所のできるのが望ましい。
- ・（委員）教育的な側面を含め、清掃活動と合わせて九頭竜ダム湖のコクチバスの駆除にも取組みたい。子供や地域住民と協力して行う清掃活動と駆除の活動を組み合わせようか。

(4) 20. NPO 法人九頭竜自然楽校についての報告

- ・（副委員長）補足説明として、NPO 組織は解散したが活動は継続している。チェーンソーギングなどのイベントも行っている。

(5) 21. ノーム自然環境教育事務所（奥越前まんまるサイト）についての報告

- ・（委員）補足説明として、ノーム自然環境教育事務所では、上庄里芋のイモ洗い機を使った小水力発電実験を始めた。将来的にLEDなどで電飾したい。  
また、九頭竜ダム湖でのコクチバス駆除の活動に参加した。バスの生態系は特徴的である。生態系の学習や体験ツアーを含めた駆除を行うのはどうか。  
子供たちがモンベルのような自然体験を活かした職業につくことを目指せるような取り組みができると良い。  
→（委員長）子どもたちの選択肢が増えるとすばらしい。各団体で支援・連携できる場所はぜひ応援してほしい。

### 3. ダムによる地域貢献について

ダムによる地域貢献について事務局より説明を行った。主な質疑応答及び意見は以下の通りである。

- ・（委員長）インフラツーリズムでの連携はいかがか。（株）モンベルとのタイアップはどうか。広くエコツーリズムの一部と考えてはどうか。  
→（委員）ダムの管理者の立場でツーリズムの企画をするのは難しい。皆さんに広くアイデアを寄せていただき、ダム側が制度や施設整備面で支援させて頂く形を望みたい。長続きする取り組みにしていきたい。
- ・（委員）（株）モンベルの Sea To Summit をイメージするものか。  
→（委員）市内をサイクリングした後、荒島岳へ登山などが考えられるが、サイクリングが難しいシニア向けに、ダム見学をしてもらおうインフラツーリズムもあるだろう。ただし、現時点では土日にダム見学ができない課題がある。  
ダムだけでは駄目だが、その他の観光の中で1時間程度組み込んでもらえば良い。（株）モンベルのフレンドタウンに大野市はなっており、少人数の旅行者に見学し

てもらおうような企画についても、(一財) おおの農林楽舎と話している。

- ・ (委員) 仏原ダムの下流に流れも穏やかで良い景色のところがある。直接、人が近づけないが、カヌーで行って楽しむことができる。  
→ (事務局) そのような提案をいただきたい。各団体から様々な取り組みをご提案をいただければ、どうやったらできるかは行政が考えます。各団体が地域活性化を引っ張る、それを行政が下支えする、という考えです。
- ・ (委員) ミズベリングを足羽川でやっている。当初は行政から各団体へ働きかけていたが、利益がでることがわかってきたことから、今は各団体が積極的になり、盛り上がっている。大野市は湧水があることから、どこでもミズベリングができるので、ダム貯蔵水をミズベリングでだしてみてもどうか。  
→ (委員長) 行政の取り組みに地域を巻き込んでいくこと、地域がやりたいことを行政が支援するのが大事。

(委員長まとめ)

各機関の活動が素晴らしい。背中を押したりつなげたりする連携体制をつくっていくことが重要である。連携や活動のアイデアがあれば事務局に寄せていただきたい。

#### 4. 各機関へのアンケート結果について

各機関の協力をいただき行ったアンケート結果を事務局が説明した。特に質疑はなかった。

#### 5. その他

##### (1) 副委員長から

来年度に開催される国体のプレ大会に向けたカヌー競技会場の工事を進めている。福井国体に向けて皆様に協力して頂きたい。

##### (2) 大野市長あいさつ

ダムの恩恵をもう一度整理して伝えてほしい。それぞれの関係機関が担っている役割と覚悟を伝えて、これからの50~100年を考えていって欲しい。

#### 6. 閉会

以上